



## はじめに

先日行われた収穫祭では、大勢の客さんにセンターに足を運んでいただき、子どもたちの体験発表をご覧いただいたり、模擬店やバザーを楽しんでいただくことができました。ご来場してくださった皆様、ありがとうございました。

子どもたちは、「お世話になった方々に感謝の気持ちを表すために、自分たちが成長した姿、頑張っている姿を見せて恩返しをしよう」ということを大きな目標の一つとして取り組んできました。当日は、なんとかそのような姿を見せることができたのではないかと胸をなでおろしているところです。また、多くのOBが応援に駆けつけてくれ、特に昨年度修園したOBがほぼ全員（1名、前日の発熱によりキャンセルとなってしまいましたが）来てくれたこと、2日目にはOB会長を中心として初めて出店し、OB全員で収穫祭を大いに盛り上げてくれたこと等に加え、米寿を迎えた受入農家さんのお祝い、結婚した指導員のお祝い等、いろんな方々の相手を思いやる気持ちや感謝の気持ちがありふれた収穫祭だったと感じています。

山村留学センターが開設して22年。この収穫祭はセンターのものだけではなく、今や北三瓶の大切な行事として定着しているのではないかと思います。今後も北三瓶がさらに発展していくよう、子どもたちと一緒に頑張りたいと思います。

大田市山村留学センター  
主任指導員 稲井 祐介

## 活動カレンダー

10月 3日(金)	センター入り	26日(日)	キノコ狩り (PTA活動)
5日(日)	運動会	30日(木)	朝:さつま芋掘り
6日(月・振休)	避難訓練・稻刈り	11月 2日(日)	山口祭り
13日(月・祝)	サビキ釣り (募集活動)	9日(日)	文化祭
14日(火)	農家入り	15日(土)	収穫祭1日目
18日(土)	敬老会 太鼓発表	16日(日)	収穫祭2日目
23日(木)	センター入り	18日(火)	農家入り
25日(土)	脱穀	(*この日以外の休日は全て収穫祭準備)	

## 北三瓶っ子大運動会

10/5 (日) 晴れ

この日は朝から晴っていましたが、前日に激しい雨が降ったため体育館で運動会が行われました。北三瓶の小中学校と地域との合同運動会のため、大勢の人が集まりにぎやかな運動会でした。小中合同の競技では中学生が小学生の手つないで走って色々な障害物を超えていたり、仮装したりと小学生を中学生がカバーしたりする場面があり、小規模校ならではの姿を見ることができました。地域の競技も玉入れや縄跳び、綱引きリレーとありました。山留生の保護者も農家さんのチームに入って活躍していました。子ども達も最後の競技は全校リレーでしたが、それまでの得点は同点だっただけに白熱したリレーになりました。その後は、全校でダンスがあり、2学期入ってからずっと練習していたダンスを披露しました。楽しい運動会になりました。



## 避難訓練

10/6 (月・振休) AM 晴れ

今回は、消防士の方に来ていただいて避難訓練をしました。事前に学園生達にも話をしてからの訓練だったので、スムーズに訓練することができました。避難訓練の後は、消火器の使い方を教えてもらいました。学校などでもやったことのある学園生は上手に消火器を噴射していました。



## 稻刈り

10/6 (月・振休) PM 晴れ

育成の状態が悪かったり、天気が悪かったりで、なかなか出来なかった稻刈りをようやくしました。何度も日程が変わりましたが、農家の矢田さんを始め地域の方々がたくさん手伝いに来て下さいました。まずは、それぞれ収穫祭にお供えする稻を自分が苗を植えた所から刈り、名前を付けて保管した後、矢田の父さんに稻刈りの仕方を教えてもらってから始めました。みんなでまずは鎌で刈りました。



刈ることはできるのですが結束が結構難しく、しっかりと結ぶことがなかなか出来なくて苦戦していましたが、慣れてくるとみんな黙々と取り組んでいました。途

中から、稻刈り機を使い、順番に交代しながらやりました。刈り終わると、結束した稻を田んぼの外に運び軽トラに乗せセンターへ運びました。センターへ運んだあとは事前に立てておいたながらに掛けました。夜までかかるか心配しましたが、地域の方の協力もあり17時ごろには全て終わることが出来ました。



## サビキ釣り 10/13 (月・祝) 晴れ

この日は、募集で集まった子どもと保護者と一緒に和江漁港でサビキ釣りをしました。春に行ったボッコ釣りとはまた違った釣り方で、春はボッコ（カサゴ）でしたが、今回はサビキという仕掛けでアジを狙いました。今回は交流事業ということで、地域の子とそれぞれペアを組み学園生は地元の子に教えながら釣り道具を準備しました。準備が終わると撒き餌を入れたカゴを付けた糸を海に垂らしました。普段は、すぐ釣れるような場所でしたが、今回はなぜかなかなか釣れず海を覗いてもあまり魚が見えませんでした。それでもたまに小さなあじが釣れたり、カニが釣れたりしましたが、2時間ほどの釣りで1人、0~3匹ほどしか釣れませんでした。釣りが終わった後はお昼を食べてセンターへ戻りました。だいだい一人1匹ほどはあったので釣れた魚を作業棟で捌き唐揚げにして食べました。



## 脱穀

## 10/25 (土) PM 曇りのち雨

この日は少し小雨が降っていた中でしたが脱穀をしました。脱穀は田んぼ作業の中で学園生がやる最後の作業になります。コンバインという便利な機械もありますが、学園生はまず昔の人が使

っていた道具、足踏み脱穀機、千歯こき、そして唐箕を使って脱穀します。足踏み脱穀機は、実は島根県出身の人が自転車をもとに開発されたと言われていて、足でペダルを踏むと、羽根つきのドラムが回転し、稻穂から粉を勢いよく飛ばしてくれるパワフルな道具です。そして唐箕は、米の詰まった重い粉と、空の粉や藁のくずとを風の力でより分けてくれる道具です。

どちらも今は現役で活躍することは少ない昔ながらの道具ですが、今の稻作で主流のコンバインも、中身は同じ仕組みが使われていて、作業のお手伝いに来てくださいました。2人一組に分かれて作業を行

いました。全部はやり切れないため、コンバインも同時進行で行いましたが、どの作業もみんな集中して出来ました。次の日には受入農家の矢田さんのお宅で、もみすりをさせていただき袋に詰めセンターに運びました。今年は雨が少なく水不足のせいなのか、暑すぎたせいなのか分かりませんが、昨年よりはちょっと少ない280kg収穫となりました。



## キノコ狩り 10/26 (日) 晴れ

大田市にある茶店ギャラリー野の花というお店をしているキノコに詳しい和田さんを講師に招いてキノコ取りに行きました。この日は PTA 共催で行われたため、学園生以外にも地元の子と保護者の方も一緒に参加しました。この日は、ハタケシメジというキノコを探しに行きました。先生に教えてもらった場所までは車で移動しました。そこから少し歩くと先生がハタケシメジを発見。

みんなでどんなキノコか確認してから、それぞれ探し始めました。すぐに見つける子、なかなか見つからない子と色々でしたが、思って

いたよりもたくさん見つけることが出来ました。ハタケシメジ以外のキノコも見つけましたが、どれも食べられないキノコでした。1時間ぐらいの散策でしたが、最後まで学園生は目を凝らしキノコを探していました。取れたキノコはセンターへ持ち帰り、ハタケシメジだけのおすましとバターソー

テーにしていただきました。味や触感もよくみんなで美味しく食べました。



## さつま芋掘り

## 10/30 (木) 朝 晴れ

週末の天気があまり良くない予報のため、天気のいい平日の早朝にさつま芋掘りをしました。冷え込んだ朝で少しさつま芋や土も冷たい中でしたが、みんなで120本植えたさつま芋を朝の短い時間でしたが全部掘ることが出来ました。さつま芋が出るたびに「見て、さつま芋あったよ」とあちらこちらで嬉しそうな声が聞こえたり、顔ぐらい大きなさつま芋も出てきてみんなびっくりしたりしていました。今年のさつま芋は豊作でした。



## 山口例大祭

11/2 (日)

晴れ

山口八幡宮で山口祭りが行われました。まずお宮で神事に参加した後、旗や注連（しめ）縄を持って地域を歩き、その後、子どもも花車に参加し集落を練り歩きました。「よいやさー、こらさー」などの掛け声もありましたが、少し照れくさくあまり大きな声が出ない学園生でした。花車が終わった後はお宮へ帰り神楽を見ました。数日後は自分たちが学校で披露するおろち（大蛇）もあったため真剣に見ている子もいました。半日でしたが、北三瓶っ子として地域のお祭りに参加させてもらいました。



## 文化祭

11/9 (日) 晴れ

北三瓶小中学校で地区文化祭が行われました。子ども達は学校での学習発表がメインですが、学園生は多根子ども神楽団として大蛇も披露しました。今年は4月から週1回の練習をしていますが、文化祭で披露することに決まってから日数はさほど多くなく、どこまでできるのか心配しましたが今回のセンター生活に入ってからはセンターでも練習をしていてその成果もあってか、良い発表が出来ました。帰ってきた子ども達は一つ大きなイベントを終え一安心。ここからは収穫祭へ向けて全力投球です。



# 収穫祭 1日目 11/15(土)

学園生が時間をかけて準備してきた収穫祭の本番がやって来ました。作物の収穫をお祝いするとともに、学園生一人ひとりの成長を披露し、日ごろお世話になっている方々へ感謝の気持ちを表す場となる収穫祭を今年も行ないました。午前中は、半年間の農事の発表や、作物が収穫できた気持ちを表す感謝の式をしました。子ども達は農家さんや自分の親に今年採れた米を渡して写真撮影などしました。

お昼を食べた後は、農家さん、学校の先生、地域の方、保護者とたくさん

晴れ



の方々が見守る中、個人体験の発表、神話劇と太鼓の発表を行ないました。個人体験は、4月からの山村留学生活の中で興味関心があるもの、この北三瓶でしかできないことなどを体験したり、研究、調査したことを一人5分の中で発表しました。発表の前は「緊張する」と言っていた学園生たちは、名前が呼ばれると堂々とステージに立ち発表していました。客席からは驚きや関心の声がきこえたり、笑いが起きたりしていました。個人体験の後は、全体発表の神話劇です。今年は、全体発表を何にするかからみんなで話し合って決めました。当日まで演技の方も心配していましたが、セリフもしっかりと覚え、会場からは笑い声も聞こえ盛り上がっていました。最後は、地域の子ども達と一緒に叩く太鼓です。今年は、久しぶりに「どじょう掬い」の披露もありました。時間をかけて準備してきた発表も、あっという間に終わり、子ども達の緊張していた表情は達成感で満ちているような表情に変わっていました。

全部の発表が終わった後は、農家さんや地域の方々を招いて会食を行ないました。最後は、たくさん学園に戻ってきた卒園生と共に太鼓の発表をして終わりました。



## 収穫祭 2日目 11/16(日) 晴れ

2日目は保護者を中心に、模擬店やバザーを開いて地域の方々におもてなしをする日でした。学園生は朝から掃除をしたり、保護者の準備と一緒に手伝ったりしました。10時になると、学園生だけの太鼓が始まり、太鼓が終わると同時に模擬店がスタートしました。今年は、鳥飯に手作りパンに焼き菓子、焼きそば、

ワッフル、推進委員会の豚汁などのお店が並びました。そして、今年は、卒園生も出店してくれたので、賑やかな模擬店となりました。11時からバザーが行われ、会場の外には行列が出来ていました。他にも輪投げやマッサージなどのブースもありました。今年は天気も良くてたくさんの方々にご来場いただきました。

最後はbingo大会が行われて盛り上がった後は、太鼓クラブと卒園生、卒業していった地域の子たちも交じってみんなで太鼓の発表をしました。大勢で迫力のある

太鼓に、地域の方々にも喜んでいただきました。

2日間あっという間に終わってしまった収穫祭。片付けが終わり、保護者も卒園生も帰ってしまったあとは、学園生だけになり少し寂しそうでしたが、みんな緊張から解放されやりたいことを存分にやっているような光景が見られました。



### ～写真で見る収穫祭準備編～

農家さんや家の人に  
渡すお米の袋詰め



祭壇のしめ縄作り



農事暦  
作り



ビラ配り



## 西村崇司のつぶやき

＼心の友／

この数年、自宅と職場の往復が行動範囲となり比例してごく限られた人とばかり接しているので、いろいろな世代や地域の人に会って話す機会はずいぶん減ってきました。ですから筆者の感じ方は皆さんとのそれとはかけ離れているかも知れません。今年の正月明け家の片付けに取り掛かった時、逝きし世の面影（渡辺京二）という単行本が出てきました。積み置きしていたのでまっさらなままでしたが、読んでもいないのに思い入れが強い本です。というのも、買うに至った動機が中学生以来の友人のつぶやきだったからです。中学校に入学したとき知り合った頃の彼は、行動力や発言力が高くみんなのリーダー的存在でしたが、多読・乱読の人であり進取の気性が高く、「あいつが言うことには協力しよう」と思ったものです。その彼は40歳で脱サラし帰郷、都会地生活の頃から続けられていたブログを折に触れ読んでいました（今も居場所を変え続けています）が、そのなかに、「今年のもっとも印象に残った本は『渡辺京二の逝きし世の面影』だ」の記事に惹かれ買った本です。手に取った時から一筋縄では読めない、と直感したものですが読み通り読み切るのに四ヶ月かかりました。こんなにも疲れながら本を読んだのは何十年かぶりで、内容を知るというより40歳を過ぎた彼がどの点を評価したのかを探るという目的もありました。その過程で得るモノがありました。それはいつもあれば読み過ごすだろう新聞記事の「教養とはなにか」に目がとまったことです。教養という言葉を久しく見聞きしなかったことに驚きました。いつ頃までだったのか「あの人、教養あるね」といった会話があったはずなのに今は死語の感があります。単に豊富な知識という意味合いではないのはわかりますが、記事の論評のひとつに「自分は『教養とは自分自身で自分を作りあげること』と定義している」とあり、こんな解釈があるのかととても驚きました。先に挙げた本は、江戸期を終え明治の初め頃にかけて来日した外国人が書き残した記録や手紙が紹介されていて、写真や素描もあり150年から120年くらい前の古き日本の様子を知ることができました。その時代を美しいと感じたのかと問われれば答えに窮しますが、現在と比較すると夢のような生活があったなとは感じました。しかし、1961（昭和36）年生まれのわたしの成育歴では、昭和40年代の初め頃の農村の生活ぶり（の記憶）が夢のように感じていて、一方ではその時代の生活には絶対に戻れないというジレンマを持っています。そういったことを考えさせてくれる機会を与えてくれた友人に感謝し、会おうと思えばいつでも会える彼とこの本をネタに話しがしたいと思っています。

## 「くにびき通信」2025年度 第6号



大田市  
山村留学センター  
Sanbe Kodama Academy



〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp

大田市山村留学センター バックナンバー  
公式ホームページ